

市役所の内部評価の基準

面シート

No. 22

評価課	政策推進課
関係課	地域文化課
基本目標	行政経営
項目	協働・連携
目指す姿	自治会や団体、学校、企業、行政など、さまざまな活動主体が、お互いの立場と役割を理解し、協働・連携してまちづくりに取り組むまち
関連するSDGs	

①施策の取組状況及び成果

No.	施策	取組状況及び成果	コロナ禍	戦略	達成度
22-1	市民協働のまちづくりを進めます	●各地区の区長会等に出向いて、地域課題を住民が主体的に解決していく取り組みの必要性を呼び掛けた。この結果、大野地区では課題解決検討の発起人会が設置され、阪谷地区では現状分析のため人口や世帯数などのデータを収集する作業が開始された。(再掲) ●「大野市総合計画」に基づき、市民協働のまちづくりを進めます。 【取組状況及び成果】 ・施策に関連する取り組みを記載しています。(この場合、施策22-1の「市民協働のまちづくりを進めます」に関連する取り組みを記載しています。) ・令和3年度末時点を基準日として記載しています。 ・どのような取り組みが当該施策に関連するかどうかについて、大野市総合計画の冊子を開き、当該施策に関する部分を読んでください。(施策22-1の場合、冊子93ページに当該施策に関して記載しています。)	※	※	○
22-2	他の自治体などとの協働や連携によるまちづくりを進めます	●高校生の探究活動を応援し、まちづくりの提案をもらう「わたしが未来の市長プロジェクト」を大野高校と連携して実施(事業開始5年目)。成果発表会は感染症の影響により中止としたが、ビデオ審査を行い、受賞チームを決定した。 【戦略】 第2期大野市総合戦略に関連する取り組みには「※」を記載しています。(主に、人口減少対策に関連するもの) ●岩倉桜まつりイベント(愛知県岩倉市)への市民交流バスの運行や、古河花火大会(茨城県古河市)期間中の姉妹都市首長議長懇談会は、感染症拡大防止の観点から、一昨年、昨年に引き続き中止となった。 ●富山県高岡市主催の「万葉集全20巻朗唱の会」へ、道の駅と食の宣伝を兼ねた動画を提供した。 ●災害時相互応援協定を締結している福島県相馬市へ福島県沖地震を受けて見舞金を送った。 ●ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョンに基づき、商工、観光、公共交通など、さまざまな分野での連携を進めます。 【コロナ禍】 「コロナ禍」の影響を受けたと考えられる取り組みには「※」を記載しています。	※	※	○

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連した取り組み

【施策の達成度】

施策の達成度を以下の基準で評価しています。(この場合、22-1の施策の達成度を記載しています。)

(評価基準)

- ◎…計画した以上に進捗したもの、期待した以上の効果を得ることができたもの
- …概ね計画どおり進捗したもの、期待した効果を概ね得ることができたもの
- △…進捗が遅れたもの、期待した効果を得られなかったもの

※コロナ禍による負の影響も含めて評価しています。(不可抗力として取り扱っていません。)

資料5

【成果指標】

令和3年度末時点の成果指標の実績を記載しています。

【コロナ禍】

「コロナ禍」の影響を受けたと考えられる成果指標には「※」を記載しています。

②成果指標

No.	指標	内容	令和元年度 現状	令和3年度 実績	令和7年度 目標	コロナ禍	戦略
1	検討会の開催(再掲)	地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区	—	3	9	地区	※
2	姉妹都市などとの交流事業参加者数	姉妹都市等交流事業補助金を活用して行った交流事業の参加者数(累計)	—	0	1,300 (累計)	人	※ ※

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受け

【戦略】第2期大野市総合戦略に関連する成果指標には「※」を記載しています。
(主に、人口減少対策に関連するもの)

(成果指標の検証)

1	令和2年度から、全9地区の区長会に出向いて住民主体の地域課題解決の取り組みの必要性を提案した結果、すでに取り組んでいる和泉自治会に加えて、令和3年度において、新たに大野地区と阪谷地区の2地区で自主的な取り組みが開始された。
2	新型コロナウイルス感染症の影響を懸念して、全市の市民交流イベントを中止した。

【成果指標の検証】

成果指標の令和3年度実績について、達成状況を検証内容(要因分析など)を記載しています。

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

総合評価



【成果指標の検証】

「①取組状況及び成果」及び「②成果指標」を踏まえた最終の内部評価を記載しています。

(評価基準)

A【順調】

成果指標を達成し(達成見込みであり)、取り組みの成果も上がっている(成果が上がることは確実である)。

B【概ね順調】

成果指標は概ね達成され(達成見込みであり)、取り組みの成果も上がっていると認められるが、課題や問題点も見受けられる。

C【要改善】

成果指標の達成(達成見込み)は十分といえず、取り組みの成果を上げるために改善の余地を残している。

D【見直し】

成果目標の達成(達成見込み)には程遠い状況であり、成果を上げるために抜本的な見直しが必要である。

※コロナ禍による負の影響も含めて評価しています。
(不可抗力として取り扱っていません。)

企業等との包括連携協定